

令和8年度個別学力試験問題

小論文

(福祉健康科学部)

理学療法コース

社会福祉実践コース

解答時間 60分

配点 100点

注意事項

1. 解答開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入しなさい。
3. 解答は解答用紙の指定された解答欄に横書きで記入しなさい。
4. 問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁及び汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
5. 問題冊子及び下書用紙は持ち帰りなさい。

**問題** 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

十年ほど前から、私は母校の九州大学医学部精神科で、森田療法セミナーの講師を務めています。毎年、初心者コースとアドヴァンスコースの二つがあります。参加者は精神科医や臨床心理士の他にも、企業に勤めている人もいて、要するに森田療法<sup>註</sup>)に興味を持っていれば、誰でも受講できます。

講義の中で、森田療法について話すついでに、少しかだけネガティブ・ケイパビリティにも必ず触れます。というのも、森田療法に限らず、他の精神療法の底支えをしているのは、第四章で述べたようにネガティブ・ケイパビリティだからです。

二年前、スクールカウンセラーをしている臨床心理士の方から、受講後に手紙をもらいました。そこには、「ネガティブ・ケイパビリティの考え方は、現在、生徒指導上の難問が山積みになっている学校現場にこそ必要な視点だと存じます」と書かれていました。

私はやっぱりな、と膝を打って納得したのを覚えています。手紙には、続けて重要な所感も綴られていたので、そのまま紹介します。

学校にいますと、ときに指導困難、解決困難な事例に出会うことがあります。そんなとき、誰もが、途方に暮れてしまうことになります。

そのような、どうやっても、うまくいかない事例に出会ったときこそ、この「ネガティブ・ケイパビリティ」が必要となってきます。

今の時代は、「こうすれば、苦勞なしで、簡単に、お手軽に解決しますよー」のほうを受けるのです。でも、お手軽な解決ばかり求めてしまうと、何かが欠落していきましますし、結局は行き詰まってしまいます。なぜならば、「世の中には、すぐには解決できない問題のほうが多い」からです。

ことによると、学校現場は、すぐに解決できない問題だらけかもしれません。したがって、教育者には問題解決能力があること以上に、性急に問題を解決してしまわない能力、すなわち「ネガティブ・ケイパビリティ」があるかどうか重要になってきます。

そして、私たちだけでなく子供たちにも、問題解決能力(ポジティブ・ケイパビリティ)だけでなく、この「どうしても解決しないときにも、持ちこたえていくことができる能力(ネガティブ・ケイパビリティ)」を培ってやる、こんな視点も重要かもしれません。

解決すること、答えを早く出すこと、それだけが能力ではない。解決しなくても、訳が分からなくても、持ちこたえていく。消極的(ネガティブ)に見えても、実際には、この人生態度には大きなパワーが秘められています。

どうにもならないように見える問題も、持ちこたえていくうちに、落ち着くところに落ち着き、解決していく。人間には底知れぬ「知恵」が備わっていますから、持ちこたえていけば、いつか、そんな日が来ます。

「すぐには解決できなくても、なんとか持ちこたえていける。それは、実は能力のひとつなんだよ」ということを、子供にも教えてやる必要があるのではないかと思います。

(出典：帚木蓬生, 『ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力』(朝日選書 958)朝日新聞出版, 2017年より抜粋・改変)

注) 森田療法とは、東京慈恵会医科大学精神科初代教授であった森田<sup>まさたけ</sup>正馬によって創始された日本独自の神経症に対する精神療法である。(中略)森田療法では、不安はより良く生きたいという「生の欲望」と表裏一体と捉え、不安も欲求も「あるがまま」に受けとめる姿勢を培い、症状に対する「とらわれ」の打破を目指していく。

(出典：野島一彦 監修 森岡正芳他 編集, 『臨床心理学中事典』, 遠見書房, 2022年より抜粋・改変)

問 以上の文章は、精神科医であり小説家の<sup>ははきぎほうせい</sup>帚木蓬生によるものである。  
本文の内容を踏まえつつ、この文章に対するあなた自身の考えを、600字以内(句読点を含む)で述べなさい。